

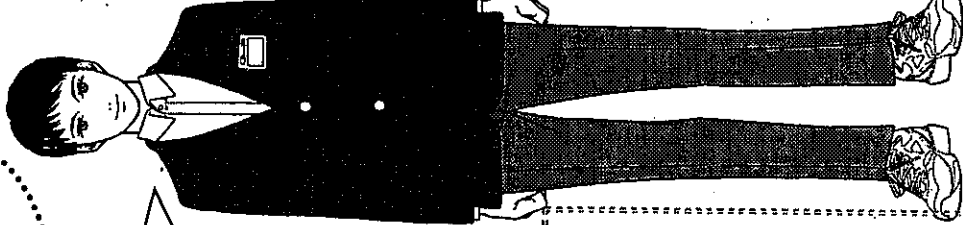
校則の見直し 【犬山中】

過去の校則の内容	変更した経緯	変更した内容	現在の状況 (生徒の判断している内容)
1 靴下は白の無地のみ	プレザ-導入に向けた生徒自治会での話し合い	華美でないものであれば色等は問わず	色は白・黒・グレー・紺等、ワンポイントあり
2 女子セーラー服の上にセーターやカーディガンの着用	プレザ-導入に向けた生徒自治会での話し合い	華美でないものであれば着用可	色は黒・グレー・茶・ベージュ等
3 男子カッターもしくは学生服の着用	プレザ-導入に向けた生徒自治会での話し合い	セーターやカーディガンも着用可	色は黒・グレー・茶・ベージュ等
4 決められたものを以外着用できない	プレザ-導入に向けた生徒自治会での話し合い	夏季のポロシャツなど類似品なら可	寒暖に応じて適切に調節・選択
5 頭髮に関する細かい規則	プレザ-導入に向けた生徒自治会での話し合い	犬中生として誰からも認められる髪型	問題なし
6 夏季の帽子・日傘や日焼け止めの使用	熱中症対策の充実	帽子はキャップ型、日傘、日焼け止め可	問題なし
7 夏季の授業中の水分補給や熱中症グッズの使用制限	熱中症対策の充実	自己判断で適切に行う	問題なし
8 夏季の体操服登校	熱中症対策の充実	体操服での登校も可	問題なし
9 夏季休業中の自転車使用	熱中症対策の充実	安全に留意して自転車使用可	問題なし
10 部活動後の着替えてからの下校	下校時間の見直し	体操服での下校も可	問題なし
11 生徒手帳の携帯	使用意義の見直し	生徒手帳をなくし身分証明書のみ発行	問題なし
12 防寒具の着用 (ウィンドブレーカーや指定のコートのみ可)	プレザ-導入に向けた生徒自治会での話し合い	華美でないものであれば着用可	色は黒・グレー・茶・ベージュ等

頭髪

中学校生活にふさわしい髪型に心がける。

身のまわりの約束



ブレザーはネクタイ着用可

身分証
名札

男子の服装

〈冬服〉
上：黒つめえり
or プレザ―
下：黒長ズボン
or 紺長ズボン
中：無地カッターシャツ
(白・水色など)

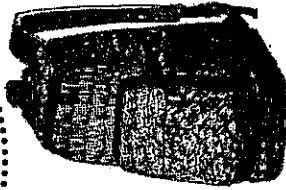
〈夏服〉

上：無地カッターシャツ
or ポロシャツ
(白・水色など)
下：冬に同じ
ベルト：黒のもの
くつ下：華美でないもの
(白・黒など)

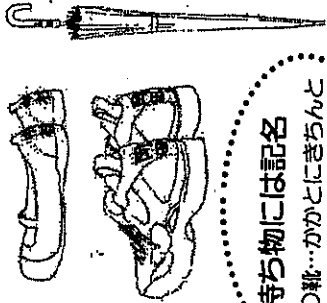
通学くつ：白の運動靴
上履き：バレエシューズ

ナップサック

○両肩にかけられる黒いもの



自転車通学者は雨合羽を着用



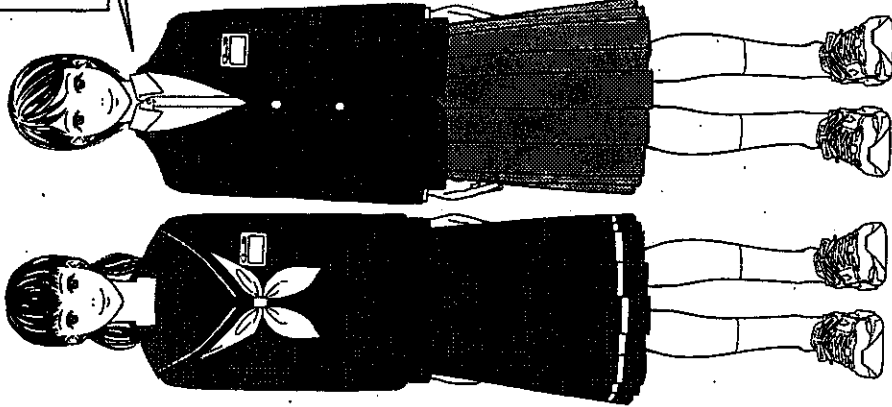
持ち物には記名

○靴…かかとにきちんと記名。

冬のインナーウェア
○セーターやカーティガンを着用してもよい。
○セーターやカーティガンは華美でない色で無地のものを着用する。

体操服

〈男子〉
・ジャージ上下
・半そで体操服(名札付)
・ハーフパンツ
〈女子〉
・ジャージ上下
・半そで体操服(名札付)
・ハーフパンツ



ブレザーはリボン、ネクタイ着用可

身分証
名札

女子の服装

〈冬服〉
上：紺のセラー服
(えりの白線は1本)
白りぼん
or プレザ―
下：紺のスカート
(白線1本)
or チェック柄
or 紺長ズボン
冬季はタイツの着用可。
(華美でないもの)

〈夏服〉

上：白のセラー服
黒リボン
or ポロシャツ
(白・水色など)
下：冬に同じ

くつ下：華美でないもの
(白・黒など)
通学くつ：白の運動靴
上履き：バレエシューズ

男女ともに、登下校時ウインドブレイカー・ネックウォーマー (華美でないもの)、コート (フードなし) 手袋 (5本指のもの) の着用可。

また、制服の上に犬中ジャージやセーター、カーディガンの着用可。

3 0 生徒指導の基本方針

R 3 . 4 生徒指導部

「生徒指導」はプラスの意味の言葉です。生徒の人間性を高め、よりよい生徒に育てる課程の指導が生徒指導です。

すべての教師で暖かく、時には厳しい目で見守りながら、一枚岩となって指導を進めていきたいと思えます。

指導が後手後手にならないように、早め早めの指導がよい結果をもたらします。高いアンテナが生徒を救います。

基本方針

- ①短所・欠点を見るのではなく、長所・才能に目を向ける。
- ②努力やプロセスを重視しつつ、結果に結びつく指導に心掛ける。
- ③生徒も教師も未熟であることを認める勇気を持つ。（共に成長していく）
- ④他との比較をせず、生徒自身が目標を設定し取り組んだことを重視する。
- ⑤一人一人の持ち味があり、お互いにその個性や役割を認め合い、協調し合うことを教師自身が示していく。
- ⑥受容的・共感的態度で接し、信頼関係を築いていく。

1. 生徒との人間関係をつくる

(1) 生徒の行動で「おかしいな」と気づいたら、その原因を探る。

< 例 >生活日記による問題提示, 個人面談→目標の設定

今までできていたこと（服装、遅刻、授業態度、提出物など）が、できなくなったら、何かに心境の変化があった証拠【救助信号】

(2) 「あとで注意しよう。」とか、「担任に報告すればよい。」という考えはやめたい。指導するときには〇〇はダメという指導ではなく、なぜ〇〇という行動がダメなのかを考えさせられる指導になるとよい。

~~(3) 頭髪など直させるのに時間がかかる場合は、期限をつくり約束させる。~~

~~頭髪の変色・長髪 短いスカート 肩ぞり 等~~

(4) 良い行動は、しっかり認める。【三つ誉め一つ叱って五つ教える】

(5) 普段の生活の中で、いろいろな話をする。

2. 保護者との関わりを大切にす

保護者は、生徒の学校での様子を知りたがっている。

(1) 生徒の実態を具体的に知らせる。（生活態度、授業態度など）

(2) 行動が気になり出したら、家庭での様子、友人関係をつかむ。

【有職、無職少年とのつながりはできるだけ避けさせる。】

電話連絡、家庭訪問等

(3 日欠席したら家庭訪問、場合によっては【日欠席でも家庭訪問】

(3) 指導ではなく、相談を持ちかけるような対応をする。

~~学校でも、何か良い方法はないかと考えております。しかし、これと
いって効果的な方法もなく困っております。家庭では何かお考えですか。~~

(4) 生活の変化がみられたら、家庭に報告し、取った方法の効果を確認し次の手を考える。

(5) **下校時刻の厳守**

顧問・下校指導教員による生徒の追い出しの徹底 声かけ（部活動のない日も）

(6) **遅刻への対応（放送による朝の音楽）**

8：05～8：10の間に音楽を流して、登校時間を守る意識を高める。

~~8：10~~ 05には脱履を通過することを意識させる。

(7) **事件が起きる時間帯への対応（放課後）**

- ① 安易に生徒を残さない。
- ② できる限り教師の指導下で活動させる。
- ③ 生徒とのコミュニケーションの確保。

~~(8) 反省文の実施（各学年で検討・対応）~~

※ 生徒指導部連絡会 週に1回実施
各学年生徒指導担当代表1名＋養護教諭が参加

※近年の最重要課題

5. いじめ防止、SNSの正しい使い方についての啓発

※H30年度以降特に力を入れて取り組んでいる

- ① さまざまな場面において、定期的に生徒に考えさせていく必要がある。
単発では効果は薄い。
- ② 道徳の授業などでも積極的に取り扱い、生徒に考えさせて、いじめやSNSについての考えをもたせることが大切。
- ③ 起こってからの指導ではなく、起こる前の啓発で未然防止をしていく。

6. 不登校生徒への対応

- ① 個に応じた指導が必要である。時には丁寧すぎるほど丁寧に、時には突き放すなど、生徒と教師の距離感やバランスを見ながら柔軟に対応していく。
- ② 学級、学年、学校の一員だという意識をもたせるような声かけは3年間し続ける。
- ③ 担任が決して一人で抱え込まない。学年、学級、学校全体の問題としてとらえ、チームで対応していく。学年が変わる時には、しっかりと引き継ぎを行う。
- ④ 新たな一人を出さない。ルールや約束で生徒たちを縛りすぎると、どうしてもドロップアウトする生徒が出てしまう。全員に必ず守らせたいことと、個によって変えていけるところのバランス感覚が重要。
- ⑤ 「今日も一日学校に来てよかった」と思わせられるような声かけ、雰囲気、環境作りを大切にする。
- ⑥ 家庭との連携も、バランス感覚が大事。目の前の生徒、保護者を見て対応の仕方を決めていく必要がある。
- ⑦ 担任は、学年の記録とは別で、支援の記録を時系列で残しておく。

『積極的な生徒指導 ・ 心に響く生徒指導 ・ 心の支援の生徒指導』

- ① 生徒と積極的に関わり、アプローチの多い生徒指導
- ② 予防に努め、事前指導を大切にした生徒指導 ※いじめ、SNSの使い方については特に
- ③ 内省を導く、生徒の心に響く生徒指導
- ④ すべての教員が語り、見守り、導く、生徒のやる気アップの生徒指導
- ⑤ 不登校（傾向）、教室に入れない生徒への丁寧な対応と家庭との連携

【確認事項】

1. すべての教員が同じ意識をもって、全員で矛盾のない生徒指導を行う。

生徒指導は、学習指導同様すべての教員が行うものと自覚し、教員が一枚岩となって、すべての教育活動をとおして、同じ意識をもって指導に当たりたい。

2. 教科の中での生徒指導を大事にする。

「各教科の中での生徒指導」が課題に挙げられています。学習規律をはじめ、教科指導の中での生徒指導を意識して進めたい。良い授業は授業規律がベースにあり！

3. 報告・連絡・相談・確認・見届けまでを確実にを行う。

「ほうれんそう」＋確認・見届けを！
その場で指導したらもう終わり、ではなく家庭連絡を含めた定期的な確認、見守りを。

4. 家庭連絡を確実にを行う。

生徒指導事案における保護者への連絡は早急に、確実に行っていく。
被害生徒の家だけでなく、加害生徒への家庭連絡を忘れずに行うこと。

5. 初期対応がもっとも大切である。（迅速な先手対応）

生徒指導事案における、初期対応の速さ、丁寧さ、親切さが非常に重要である。
多くの事は初期対応で収まるか、悪化するかが決まってくる。（保護者も）

3. 粘り強い指導、根負けをしないことが大事。

常に変わらない教師の姿勢、継続的な指導で生徒の心を耕していきたい。
~~頭髪や身なり等の指導は、あきらめたらそこで終わり。生徒に根負けせずやり切る指導を。~~

7. 教師の言葉遣い、言動、身なりには気をつける。

教師として、生徒への言葉遣いや態度、身なりには気をつけたい。
責任ある言動を心がけ、最大の効果が期待できる「その場にふさわしい」指導を。
大声、威嚇、高圧的なだけでは生徒の心にはまったく響かない。
愛情をもって、本気でその生徒のことを良くしたいという気持ちで指導に当たりたい。